

スチレン型押し版画

「希望をもって未来へ進め六年生」

松江市立津田小学校 富田 敦子



これは、図工の授業としてではなく、学校行事「六年生を送る会」のステージデコレーションを制作した時の記録です。本校の5学年は4クラスありますが、各クラスから、ステージを飾る係が4人ずつ集まり、16人で模造紙22枚分の大きさのデコレーションを制作しました。

希望の春にふさわしい桜の花びらや若草で飾りたいという子どもたちのアイデアと効率的に作業を進めたいという2つの願いをかなえるために型押し版画を取り入れてみました。

上の写真（左）が完成した作品です。桜の木と風に舞う花びら、若草の部分が型押し版画で表現した部分です。高学年で型押し版画に取り組んでみると、高学年なりの新たな発見がありました。

題材名	希望をもって未来へ進め六年生	学年	5年生	時間	5時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとアイデアを出し合い、協力して「6年生を送る会」の会場を飾るのにふさわしいデコレーションをつくる。 ・色の重なりや絵全体の雰囲気を考えながら工夫して型押し版画をつくる。 				
版画の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・スチレンボードは、好きな形に切り取ったり、彫ったりする作業がしやすく、短時間で版を作ることができる。 ・厚みがあり、弾力もあるボードなので、押し具合によって様々な絵の具の現れ方を、楽しむことができる。 ・耐久性がある版ができるので何度も型押しをすることができ、形や色の重なりを楽しむことができる。 ・共同制作の大きな作品を作るのに作業が進めやすい。 				
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・スチレンボード →スポンジ状の目の細かいボードを使用、白い発砲スチロールはカッターナイフで形成しにくいので不可。 厚さ4～5センチくらいが扱いやすい。一畳分まとめて買うとお得。 ・カッターナイフ、彫刻刀、はさみ ・模造紙、セロハンテープ（幅5センチのもの） ・ポスターカラー、筆、パレット、絵の具用バケツ ・新聞紙、手ふきタオル 				

《制作の流れ》

1, 下絵を考える。

- ①「六年生を送る会」の会場を飾るのにふさわしい絵のテーマを考える。
- ②一人ひとりが、希望や夢、未来に進むイメージの下絵を描く。
- ③各自のアイデアを話し合いながら1枚の絵に構成する

2, 下絵を模造紙に描き写す。

①分担して、拡大しながら描き写す



〈下絵を写す〉

3, 虹や人物を絵の具で描きながら、全体を構想し版を作る。

①花びらや若葉をどのあたりにどのようになりばめるか話し合いながら、版の大きさや形を 考える。

②カッターナイフでスチレンボードを切り取る。

4, 花びらや若草の色を作る。

①試し押しをする。

5, 位置や向きを考えながら型押しをする。



〈版を作る〉



〈型押しをする〉

《発見と発展》

大きなデコレーションを作り上げるのに、大人数でも作業しやすく、時間的にもできるだけ効率的で、しかも効果的な表現ができるものはないだろうか、かなり欲張った考えでこの型押し版画にたどり着きました。

実際、スチレンボードはとても扱いやすく、あまり抵抗なく作りたい形や描きたい線を版として仕上げることができます。また、型押し版画のもつ柔らかで偶然性を伴った色の写りは、高学年の子どもたちにとっても魅力的で、実に楽しそうにぺたぺたと押ししていきます。

さて、ここからが高学年。ぺたぺたと押ししていくうち、版と版をいろいろな重ね方で押した時に現れる深みをもった色やわずかな色の違いで押し上がりの違いがあることを発見していきます。今回の取り組みは共同制作でしたので、早速、色作りに専念する人、版押しに専念する人と分業して作業を進めていました。微妙な色の違いに、色を作る方も、版を押す方も、押すたびに「おおっ、また色が変わった」「この重なった色がいい感じだ」と、色の表現に興味が高まっていました。



型押し版だけを使ったデザインを考えるのも楽しい取り組みになりそうですが、いろいろな表現方法の一つとして、水彩画や砂絵の中に取り入れていくのも表現を豊かにしていく一つの方法だと思いました。また、色を混ぜて、新しい色を発見したりつくり出したりして色の幅を広げるために楽しく取り組むことができる教材になるのではないかと思います。原始的で初歩的な版遊びですが、取り入れ方によってどの学年にも表現の可能性を広げることのできる教材だと思います。